

おてだま

OTEDAMA CLUB IN JAPAN



特集1 第12回全国お手玉遊び福岡大会

2~4

第12回全国お手玉遊び
福岡大会



- 大会史上最大規模
- 学生大会
- 演舞大会

特集2

『サントリー地域文化賞』

受賞記念祝賀会

5~6



サントリー地域文化賞受賞

● 第13回全国お手玉遊び神戸大会（仮称）のご案内 …… 8

速報

第5回野外伝承遊び国際大会

遊びから学ぶ世界の文化

8

- 奈良市にてお手玉講演 …… 6
顧問 武田信之さん
- 羽田空港 夏祭りに参加して …… 6
東京お手玉の会 山内幸子さん
- テツ&トモのお二人に再会！ …… 7
- 岐阜県美濃加茂市でお手玉教室 …… 7
- お手玉（おしなご）のさぶとん型 …… 7
長野支部 会長 藤田啓子さん



第12回全国お手玉遊び福岡大会（演舞大会）

めざせ! お手玉名人

第12回

全国お手玉遊び

福岡大会



前夜祭：誰から、という訳ではなく、歌に合わせて自然に演舞の輪ができました。



団体戦開始前の緊張した会場の様子

また、これも初めての試みである、お手玉演舞大会では、2歳の幼児から即感のおぼあちゃんまで課題曲「ひよっこりひょうたん島」一きよしのズンドコ節」とそれぞれ個性を活かした振り付けをし、リズム感・芸術性・チームワークで、観る人を楽しませてくれました。

「第12回全国お手玉遊び福岡大会」は、残暑厳しい9月7日、アキシオン福岡で開催されました。お手玉遊び大会史上、最も大きな大会になりました。参加者も北海道から沖縄まで選手だけで3千5百人という盛況で、会場は熱気と歓声で、終日感動と笑顔が絶えませんでした。内容は、団体戦（学生の部13チーム・一般の部16チーム・小学生の部16チーム）、個人戦、お手玉技量認定審査などがあり、初めての学生交流大会には、あんなにたくさんの方々が、喜び、励まし合う姿は未来への光を見たようでした。

大会史上 最も大きな大会

第12回全国お手玉遊び福岡大会・成績表

演舞大会（平成15年9月6日）

《グランプリ》

参加部名	チーム名	県	曲 目	人数
グループ参加	栗整形外科病院A	愛媛県	♪ズンドコ節	7人

《個人の部》

項 目	チーム名	県	曲 目	人数
最 優 秀	小田原 光宏	東京都	♪ひよっこりひょうたん島	1人
優 秀	くりのみ館A	愛媛県	♪ひよっこりひょうたん島	2人

《グループの部》

項 目	チーム名	県	曲 目	人数
最 優 秀	勝浦お手玉の会	徳島県	♪ひよっこりひょうたん島	5人
優 秀	くりのみ館A	愛媛県	♪ズンドコ節	8人

《団体の部》

項 目	チーム名	県	曲 目	人数
最 優 秀	真美健康体操福岡本部	福岡県	♪ズンドコ節	14人
優 秀	本部「玉ちゃん」	愛媛県	♪ひよっこりひょうたん島	12人

学生交流大会・団体戦

《団体の部》

項 目	チーム名	学 校 名
優 勝	福岡女子高校・河津	福岡市立福岡女子高等学校
2 位	スポーツ王会	専門学校九州スクールオブビジネス
3 位	チームマリア	聖マリア学院医療福祉専門学校

学生交流大会・個人戦

【両手3個】

項 目	個 人 名
優 勝	石 崎 敏 己
2 位	高 橋 壮 太
3 位	岡 芳 江

【両手2個】

項 目	個 人 名
優 勝	月 尾 隆 夫
2 位	三 宅 良 幸
3 位	石 井 健 一 郎

【片手3個】

項 目	個 人 名
優 勝	高 橋 壮 太
2 位	塩 見 重 海
3 位	坂 元 克 子

【両手投げ3個】

項 目	個 人 名
優 勝	中 島 正 裕
2 位	松 元 良 介
3 位	横 村 可 子

「第12回全国お手玉遊び福岡大会」 開催までの裏話 ハブニングや苦勞

福岡お手玉の会 会長 春田 智明

全国の皆様、「第12回全国お手玉遊び福岡大会」にご参加頂きありがとうございます。ご迷惑をおかけで無事終了し、スタッフ一同心より感謝しています。

皆さんのおかげで無事終了し、スタッフ一同心より感謝しています。さて、博多者は祭り好き！そんな祭り好き「福玉会」の、全国大会までの秘話をお伝えいたします。

「目から鱗が落ちる」

今思い起こせば、私とお手玉との出会いは、昭和8月23日、「福岡お手玉の会」通称「福玉会」設立事業の、お手伝いから始まりました。

その時の私の正直な気持ちは、「お手玉なんてありや！高齢者の遊び！」「ましてや男の俺には無縁」「これも付き合ひ」と思い、仕方なく顔で笑って会場設置黒子としてスタッフ参加致しました。(なぜなら私は子どもの頃、お手玉遊びは女の子の遊び、男の子のする遊びではない、と祖父母から教えられていました)

当初、自分の子鹿的かと思いましたが、やはり会場は圧倒的に、アダルトな女性の方が多く、男性は私を含めて数名しかいませんでした。

しかし、そこで初めて藤田会長と今村師範代のお手玉をゆる姿を見て、「こりゃー凄い方が日本にいる」って思いました。

私が貸し出し用のお手玉を皆さんにお配りすると、何故か皆さん笑顔で受け取りま

す。

そしてそのお手玉をゆる時の表情は真剣そのもの、しかし落としても又笑顔、今までお手玉遊びをバカにしていた私は、一人はつんと会場の隅にたたずみ、カルチャーショックを受けたと同時に、宙に舞うお手玉が、まるで光輝く光玉に見え、そこには「ぬくもりを届けた、手から心へ」がまさに有りました。

それからの私は、お手玉が身体活動に非常に良い、究極の生涯スポーツと知ると「なんで春がお手玉？」と本人を含め、周囲の人、親戚、家族、知人が、驚く事を横目で楽しむ様に、お手玉道を楽しんでいきます。

「手は一生の財」

支部設立時、「福玉会」のお手玉技量はごくごく一部の方を除き、今回の全国大会で優勝者が出るなど全く想像できない程下手で、実を申しますとその頃の合言葉は「目指せ！お手玉名人」ではなく、「全国大会は、参加することに意義がある！」という悲惨な状態でした。このままでは、せっかく遠方より来て頂いた全国の皆様は失礼とばかり練習会を行い、競技者の技術向上と競技人口の増加を目指し、今年師範代になられた杉村さんと、副会長藤井さんのご指導のもと、会員一同練習に練習を積み重ね、大会直前には「目指せ！お手玉名人」が名実とも合言葉となりました。

「善は身につく」

数回にわたる大会企画会議では、この素晴らしい伝承遊びであり、生涯スポーツであるお手玉遊びをたくさんの方の福祉関係の皆さんに知って頂き、卒業後福祉現場で活動する際に、少しでも役立てて頂きたいと学生交流大会を企画しましたが、その道のりはやさしいものではありませんでした。

興味を示した学校は多数有りました。ところがその指導を行なう先生がいない学校

個人戦・小学生の部 (平成15年9月7日)

【両手3個】		【片手2個】	
項目	個人名	項目	個人名
優勝	登木 愛美	優勝	永田 悠祐
2位	柴田 美保	2位	平野 雄也
3位	小原 真季	3位	小原 真季

団体戦

〈小学生の部〉			〈一般の部〉		
項目	チーム名	県	項目	チーム名	県
優勝	吾桑フェニックス	高知県	優勝	Happy Jugglers /	福岡県
2位	みなかぜキッズ	福岡県	2位	栗整形外科病院A	愛媛県
3位	吾桑ファイターズ	高知県	3位	ならまちミスラン	奈良県

個人戦・一般の部

【片手2個】		【両手3個】	
項目	個人名	項目	個人名
優勝	米田 芳子	優勝	江原 静子
2位	柳瀬 政巳	2位	老田 学海
3位	江原 静子	3位	

【両手4個】	
項目	個人名
優勝	佐藤 信春
2位	老田 学海
3位	西本 均子

【両手投げ3個】	
項目	個人名
優勝	高橋 壮太
2位	多田 二郎
3位	柳瀬 政巳



わらべお手玉

大会メモ

楽しい大会会場の様子を収録したビデオができ上がりました。興味のある方は、下記まで問い合わせ下さい。

福岡観光コンベンションビューロー
TEL:092-733-5050

特別賞

- ① 団体 長寿賞 (5人の合計年齢が一番高いチーム)
福岡市南区 塩原ささなみの会「花娘」35才
- ② 個人 長寿賞
福岡県東区「笑顔大好き組」
添田 シゲ子 さん 74才
譲二 さん 52才
優子 さん 25才
修一 さん 23才
- ③ 個人 最高齢者賞
福岡県粕屋町「モモエチーム」
藤谷 モモエ さん 89才
- 80歳以上
福岡市南区塩原ささなみの会「花娘」
木戸川 タカ さん 85才
福岡市南区塩原ささなみの会「花娘」
衛藤 久子 さん 82才
愛媛県新居浜市「秋月組」
秋月 千代子 さん 80才

ばかり。その為か講師依頼は凄く数の上、福玉会で指導出来る方も少数に取られていましたので、多い時は一人で三校掛け持ち状態など有り、指導に行かれた女性の美声は、聞くも無残にガラガラ声になってしまったこともありました。

また本来は一人一人にお手玉を作ったことからはじめたい思いでしたが、学校のカリキュラムの都合で製作出来ない学生さん、一個50円のお手玉を貰うお金の無い学生さんが多数の為、NPO法人福岡県レクリエーション協会が福玉会を通じ無償で学生さんに、一人三個のお手玉貸し出しをして下さいました。このお手玉の提供が学生交流大会成功の要因となりました。

「福玉会と成す」

私共はお手玉を通じて、たくさんの方に幸せを少しでも提供できればとの思いから、お手玉製作には、知的財産施設フレンズ様にお願ひ致しました。当初は数回ゆるりと中身のペレットが飛び出した事も有り、慌てて会員が交換に走ったことも有ります。またある学校では、全校生徒参加で一度に、千回近くの発注が有り、製作が間に合わず、会員皆で夜なべして作りしました。そのかいあってか現在では、フレンズ製お手玉は好評で、沢山の皆様に御注文頂いています。今思えばこの様なアクシデントが、後の福玉会の結束を強くしたのではないかと思います。

「溢る世間には無い」

会員の殆どが全国大会未経験者ばかりの福玉会は、ブレ大会と称して、本年1月4日に新春お手玉遊び大会を開催致しました。その日、福岡では例年では考えられない大雪、午前中交通機関が麻痺し、ご参加頂いた方の中には雪道を2時間近く、ご自宅から歩いて来てくださった方もいました。そんな皆様のお陰で、会場は200人の満員となりました。今考えると大雪が降らなければ会場に

入れない方が、沢山いたのでと思うと背筋がぞっと致します。

この日も藤田会長、今村師範代は新居浜より駆けつけて頂き、ご指導頂きました。楽しいひと時は思いのほ早く過ぎ、その夜、ご両名様にお疲れをものともせず全国大会について色々とお指導頂いた事は、今も鮮明に覚えています。

その打ち合わせの中で地元地産色を出すヒント頂いた私共は、無謀にも博多人形玉ちゃんを企画し、博多人形共同組合にその製作をお願いしました。当初は難色を示していた協会も、快く製作に取り組んで頂き、全国大会会場の皆様にご提供できました。素敵な博多人形玉ちゃんは、まだ目の目を溶かす幾つか箱に眠っています。これをお認みの全国の皆様、是非ご購入ご検討下さい。

一度決めたならば怖いもの知らずの福玉会。事務局長原さん、博多人形が出来たら「次は博多織お手玉」と全国の皆様は博多の伝統工芸を知って頂きたく、博多伝統職の会様に関連製品製作をお願いしました。その結果、今回は沢山の博多者（はかたんもんり）何かをする時、快く協力をさせて頂ける方を称しての言葉の皆様による御協力のお陰で全国の皆様に博多の良き伝統工芸をご紹介できたと、よろこんでおります。

「旅は慣れ人は心」

準備を進める中で本部より新居浜市民大会のご案内を頂き、少しでもお手玉遊び大会の感銘を得たく、新居浜に行きました。九州から四国に海路で渡り、早朝四国に入り、車で新居浜ドームに向かいました。驚く事に、いざ会場について見ると会場周辺と会場内には、第12回全国大会のポスターが強風の中一枚もはがれずしっかり無数に貼ってあり、思わず一体何人の方で何時間かけて張って頂いたことかと驚き感謝を致しました。

会場内では、本部の皆様、新居浜市民の皆さんから一様に優しく心のこもったおもてなしを受け、私は思わず新居浜に転居したい気持ちになりました。大会では全国大会のPRタイムも頂き個人戦、団体戦共に出場させて頂きました。この帰路の途中、私共の数名は不安を持ちました。そうです。新居浜大会には素晴らしい選手と審判がそこにはいたからです。今までは選手育成だけを考えていましたが、予想以上に審判が大会の良し悪しを左右することを再認識いたしました。早速私共は福岡に戻り、審判育成を検討し審判養成講習会を本部役員の皆様と協議し行いました。

「祭りよりの日」

第一回目の審判養成講習会は、多数の本部役員の皆様にご来場頂き、会場は予想以上の約100名の方に参加頂きましたが、審判経験は初めての方が多く、教名の方を除きこれで全国大会開催と不安が的中し、正直その審判技量は、目を覆いたい気持ちになりました。

その後次第に参加選手の応募が入ってきだし、学生交流大会は30人集まれば大成功と思っていました。驚くことにその後、参加者数はどんどん増えなんと100名、試合コート数21コート審判数63名、記録集計係りを含めると105名の、審判団が必要となり、大会実施に当たり、審判団育成が最大の急務となりました。

そこで、本部役員の皆様に第二回目の審判養成講習会をお願いし開催した所、前回第一回審判養成講習会受講者の皆さん、各自審判練習をされていたのでしよう、以前と比べますと審判技量はかなりレベルアップし、素晴らしい審判の方が多数になり胸をホッと撫で下ろしました。がその喜びもつかの間、審判団の多くは選手と審判の二足のわらじ状態！博多者は祭り好きが仇となり、またまた試練が待ち受けていました。

しかし石橋競技委員長、近藤審判長を中心とした多数のスタッフの前日深夜までの必死の調整結果、どうにかお祭り大好き審判団はその責務を無事終わらせました。

「ありがとう」

大会までの網渡り秘話をご紹介致しましたが、まだまだ書きつくせないことばかりです。残りは皆様とお会いした時の土産話に致したいと思えます。

今大会は、NPO法人福岡県レクリエーション協会の皆様、全国のお手玉愛好家皆様のご協力で、素晴らしい第12回全国お手玉大会が開催出来た事に、改めてお礼申し上げます。これからも少しずつお手玉遊びの輪（和）を、ひろげていくことをお誓い申し上げ御報告とさせていただきます。楽しいを皆様と共に遊ばたい福玉の春でした。



個人戦前の練習中！ みなさん真剣です！

「サントリー地域文化賞」に輝く！

サントリー地域文化賞について

「サントリー地域文化賞」は、財団法人サントリー文化財団が、国際化・情報化・高度大衆化社会の時代に応じて、文化活動の振興ならびに国際理解の促進に寄与することを目的に、毎年地域の文化向上に顕著な貢献をした個人または団体を顕彰しているものであり、その選考にあたっては厳しい審査はもちろんのことですが、地域の意見や評価を尊重するため、全国各地の新聞社ならびにNHK各地放送局の推薦を必要とし、自薦は一切認められず全て他薦によることが条件となっています。

受賞理由・団体

過去の受賞団体もそうであったようですが、今回も大変古い歴史があり立派な伝統を受け継ぎ、長年活動を積み重ねてこられた団体ばかりです。

日本のお手玉の会は年と日が浅く、実践活動の期間も他の団体と比較すると極端に短いことから審査の対象となることすら異例で、今回は極めて希な受賞となりました。伝統のお手玉遊びに新しく競技性を加えたこと、子供の教育面や身体の健康面で新しい効用を見出し、全国お手玉遊び大会の実施など幅広く画期的・独創的に活動していることが認められました。

平成15年度

- 1 「第25回サントリー地域文化賞」受賞団体 秋田県羽後町「西馬音内盆踊り保存会」
- 2 岐阜県美濃市「美濃流し仁輪加」
- 3 岡山県岡山市「林太郎少年合唱団」
- 4 高知県馬路村
「馬路村柚子のふるさと村づくり」
- 5 愛媛県新居浜市「日本のお手玉の会」

贈呈式・記念祝賀会

贈呈式は、平成15年7月15日（火）東京の全日空ホテルで盛大に挙行政され、藤田会長をはじめ東京在住の顧問・会員総勢の名が出席しました。

会場ステージには、大きなお手玉が数個飾り付けられ、受賞者の紹介もお手玉パネルト、まず一同感激。お手玉一色の雰囲気

の中で、財団法人サントリー文化財団理事長佐治信志様より酒と副賞をいただきました。式の後、お手玉演舞の披露で会場は盛り上がり、拍手喝采を受けました。

この受賞の喜びを多くの方に、平成15年9月26日（金）リーガロイヤルホテル新居浜において「サントリー地域文化賞」受賞記念祝賀会を開催いたしました。

当日は、財団法人サントリー文化財団事務局長小椋覚様をはじめ多くのご来賓のみならず、そして会員合わせて一五〇名のご出席をいただきました。

歓談ではソプラノ歌手伊藤直美さんの友情出演や、福岡大会の中の演舞大会でグランプリを獲得した伊予三島市栗形整形外科病院のみなさんのお手玉演舞が披露されるなど、大変楽しく和やかな雰囲気の中で盛会裏に終了しました。

この受賞を契機として、また一歩前進し、一層お手玉の普及活動に邁進し、喜びと笑顔を携えて全国へ世界へとお手玉の輪を広げ、人から人へ、手から心へ温もりを伝え、明るく心豊かな社会の実現に努力し、そしてお手玉文化の架け橋から、世界平和へとつながることを念願しています。

全国大会でグランプリを獲得した栗形整形外科病院のみなさんのお手玉演舞。



伊藤直美さんに童謡を歌っていただき、合わせて演舞しました。



ソプラノ歌手伊藤直美さんの「乾杯の歌」会場中の方が聞き入っていました。

保育士さん

一五〇人が熱心に

「お手玉の魅力」の紹介と遊びの体験

キッズいわき・ばふ「なつ」のついでに、イン 奈良

武田博之前会長の講演

子ども向けの玩具や図書などの教材を取り扱っている、キッズいわき・ばふ(宇治)が主催する講習会「なつ」のついでに、イン 奈良が、平成15年8月30日に、奈良市の春日野で行われ、関西地区の保育士さん約三〇〇人が参加した。

講習会は、午前中、日本のお手玉の会の武田博之顧問の「お手玉の魅力」と、遠野のわらべうたの研究家・平林智子さんの「遠野のわらべうたに学ぶ」の二つの講座。午後は、日本大学大学院教授の森昭雄医学博士による講演「ゲーム脳の恐怖」が行われた。

童心に返ってお手玉体験

「お手玉の魅力」には、一五〇人が参加した。「手から心へ、ぬくもりをーお手玉遊びで親と子の心と心を結ぶー」と題して、隔世伝承のお手玉で世代交流を図ろう、お手玉は「世界の無形文化財」といった歴史や、お手玉には心と体をいやす効果があるなど、お手玉の魅力が語られた。参加者は、初めて聞く、お手玉の歴史や、伝承遊びのお手玉が持つ効果などについての話に、熱心に聞き入っていた。

とくに、最近、森昭雄教授が発表された、「いまの子どもの多さが「ゲーム脳」になっており、「キレる」「むかつく」といった弊害を招いている。それを改善するにはお手玉をするのがよい」と発表された話には、強い興味を示し、目を輝かせながら耳を傾けていた。

話しのあと、参加者全員がお手玉を持って、一係でできる遊び、二係で行う遊び、二人で行う遊び、五、六人で行うコミュニケーション遊びなどを体験した。参加者は童心に返ったように、歓声をあげながら、笑顔でお手玉遊びに取り組んだ。

遠野のわらべうたとお手玉

「遠野のわらべうたを学ぶ」の講座では、わらべうたを歌いながら、遠野(岩手県)に大切に伝承されている、わらべうたのころなどを学習した。

遠野のわらべうたは、長年にわたって歌い継がれながら、子どものしつけに利用されてきた。子どもの発達過程に応じて、うたをとおして、郷土の歴史や自然と人のかかわりを教えたり、社会のルールや人間関係の重要性を、子どもにも感じさせるように伝えられてきた。遠野のわらべうたには、お手玉遊びに共通する点が多い。

また、なん種類もの歌詞で歌われている「おつう御ひとつ」や、「おひとつ」など、遠野のわらべうたには、たくさんのお手玉歌があることも教えられた。

動画で脳内の働きを示す

「ゲーム脳の恐怖」の講演では、ゲーム脳になる過程が、スライドを使って紹介された。「ノーマル脳」→「ビジュアル脳」→右前頭前野の機能低下による「半ゲーム脳」→左前頭前野の機能低下による「ゲーム脳」へ、その過程がゲームをする頻度や時間との関係が解説された。ゲーム脳になると、「突然キレる」「約束は一〇〇%忘れる」といった説明に、会場からタメ息がもれた。

圧巻は、いろいろな動作について、脳の内部のどの部分が働いているかを、動画でスクリーンに映し出したことだった。世界に三つしかないというソフトを駆使し、被験者の頭部に一三〇個の電極をセットして、タテ・ヨコ割りにした脳の断面上に、強く働いている部分、少し働いている部分、まったく働いていない部分が、色分けして動画で示された。

羽田空港

夏祭りに参加して

東京お手玉の会 山内 幸子

平成15年、東京は江戸開府四百周年記念のイベントが都内各所で催されています。

羽田空港ビルでも、8月1日(金)〜8月10日(日)までの10日間、6階キヤラクシーホールに、江戸の町並みを再現、江戸時代より伝わる「遊び」「芸術」「職人」の世界が資料と共に展示されました。東京湾の移り変わりや羽田空港の歴史、交通機関の発展、物産展のお土産コーナーなど、イベントステージでは大道芸人の公演、遊びの模範演技、工作教室と盛りだくさんの催

しがありました。

遊びの広場「お江戸やんちゃ横丁」は、江戸時代から伝わる子供遊び「折り紙」「お手玉」「けん玉」「コマ」で、達人の楽しい実演などもあり十日間で延べ3万2千人もの入場者でにぎわいました。

その中のお手玉小屋は、三畳敷きくらいの高さで、「第12回全国お手玉遊び福岡大会」のポスターを看板にし、入口には江戸文字で「伝承お手玉あそび」と縫い取りしたのぼり旗を立て、人目を引きました。入った正面には「世界のおてたま」の手作り地図、左には会の紹介と歴史、お手玉の前身やお手玉の展示をしました。

中身のあずきや数珠玉を懐かしそうに手にする大人、子供たちは食糧のとうもろこし、大豆、エンドウ豆と食べられないペレットを比べたり、触ったりして楽しんでいました。

座布団型お手玉の作り方実演・説明もしましたが、空港は旅の途中の人がほとんどで、「これから田舎のおばあちゃんに作ってもらおう」など、楽しい家族の話も聞かれました。

また、広場では自由にお手玉を取り遊んでもらいました。お父さんが積極的に挑戦し、お母さんと子供が賞賛の声をあげているなど、微笑ましい光景も多く見られました。

中には時間を気にして残念そうに立ち去る人もあり、空港ならではの様子もありました。

開催期間中に、子供達のお手玉に対する関心の高さ、伝承遊びの良さを実感しました。これからも児童に伝えていきたいと思いましたが、仕事柄、高齢者と毎日お会いしていますが、ヘルスアートのお手玉を活用して、楽しく長生きしていただけることを願って普及を心がけてまいります。



お手玉小屋で楽しそうに笑っているのは、東京お手玉の会 山内幸子さん



プレゼントをした玉ちゃんTシャツを着て、ハイチーズ!

♪なんでだろう?♪



テツ&トモ のお二人に再会!

お二人のサインを玉ちゃんうちわにいただきました。

平成15年6月の初旬に、ある雑誌の隅に「テツ&トモ 2003. SUMMER BEER PARTY」と小さな広告を発見しました。

以前、日本のお手玉の会では、NHK番組の取材でご一緒させていただき、トモさんにお手玉3段を認定したという経緯がありましたので、今や全国的にビッグになられたお二人に「もう一度お会いしたい!」と、申込をしました。人気は想像以上で、すでに満席の状態でした。キャンセル待ちでやっとなケットをゲットしました。

当日、控え室に案内され、扉を開いて藤田会長が「お久しぶりです!覚えてますか?」と声をかけるとお二人とも「覚えてますともお!」と笑顔と握手で迎えていただきました。用意していましたが、赤と青の玉ちゃんTシャツをお渡しすると、とても喜んでいただき、写真はその際に着ていたいたものでした。

ショー出演までにも取材が入っており、大変お忙しい時間にお伺いしたにもかかわらず、お手玉をゆったり、笑顔でサインをしていただいたりと、温かいお人情が大変印象的なお二人でした。

岐阜県 美濃加茂市で お手玉教室

全国お手玉遊び大会が、県外で持ち回り大会になり、熊本大会・福岡大会と、地域の特徴を活かした素晴らしい大会になり、来年の平成16年9月5日(日)には神戸で「第13回全国お手玉遊び神戸大会」を開催します。

そして、さらに愛知万博が開かれる二〇〇五年(平成17年)には、岐阜県・美濃加

茂市にある(日本昭和村)を会場として第14回全国お手玉遊び大会の開催を予定し、準備が進んでおります。

そこで、平成15年4月15日・10月4日の2回にわたって、お手玉遊びの講習会が開かれました。本部からは講師として、藤田会長と理事の村尾さんが伺いました。参加者は、小学生・中学生・お母さんとおばあちゃん、世代を超えた触れあいや地域との関わり、脳の活性化とお手玉の効能など、楽しみながら笑顔いっぱい体験をされました。

美濃加茂市では、お手玉遊び全国大会をみんなで成功させるために、今後いろいろなイベントが計画されており、お近くの方はぜひ積極的にご参加ください。

お手玉(おしなご)の ざぶとん型

♪素晴らしい日本のお手玉の会♪

長野県 南信 おしなご会
会長 篠田 啓子

「ざぶとん型」と言いますのは、「お手玉」遊びの時に手に持って遊び、技をする玩具を示して言います。

この型は、横4・5cm・縦9cmの裁ち切り寸法が同じ四枚の布を縫い合わせ、中に小豆・じゆず玉等の材料を40g入れたものです。この重さと大きさは手の平に乗(載)せて遊ぶのに丁度よいのです。別名「ともえ型」「しあわせ型(四合型・幸福型)」とも言います。

このざぶとん型(しあわせ型)を横18cm・縦36cmの寸法の四枚で「お手玉」と同じ型

に縫い、袋に仕上げます。これに米一升を入れ「一生幸福」と結婚する時にお嫁さんが持って来られました。

長野県内で南信の箕輪町や岡谷市あたりで、その習わしが伝えられているようです。素晴らしい日本文化と気づきました。このことは、現在の箕輪市在住の友人に教えていただきましたが、その家に「一生豊くす、一生よろしくお願ひします」と親類等へ、その袋に米一升を入れて挨拶にもまわられたようです。

日本のお手玉の会では、「全国お手玉遊び大会」を開催されてから十二年になります。この全国お手玉遊び大会用・段位認定用で使用のお手玉の型が、原則としてざぶとん型に決められた「決めた」ことに、私は感動しました。現在の藤田会長、武田前会長、会員のみなさまのお知恵に再び驚きました。

なんて素晴らしい日本文化、と申しますのは、日本の着物の反物の巾が36cmくらいで、その半分を縦に裁断すれば、布を無駄にしませんが粗末になりません。この型の二分の一の大きさの袋が「お手玉入れ」になり、またこの二分の一が「お手玉」となります。これに気づき、無駄なく素晴らしいと思えました。

中に入れる材料の40gという重さも、医学的に脳の刺激によいなど研究されたそうです。また、野外での遊びの時は、風等に左右されない重さにもなっています。

お手玉を縫って、手作り玩具や日本の文化を、世界の人達と楽しめることに、誇り、自信が持てるようになりました。

全国のみなさまのご意見もお聞かせくださいませ。

第5回 野外伝承遊び国際大会21カ国が参加!

平成15年11月2日(日) 素晴らしい秋晴れの中、「第5回野外伝承遊び国際大会」が、東京代々木公園の陸上競技場で行われました。(社団法人青少年交友協会・野外文化研究所主催)

野外での素朴な遊びを体験することによって、人と文化の交流、さらに国際理解を深め、遊びの意義について考える、貴重な機会を得ることができました。

日本のお手玉の会も、本部から4名と東京支部のみなさんのご協力を得て、「お手玉遊び教室」と「審判」を受け持ちました。会場では日本の子どもたちをはじめ、各国の人たちで、終日笑顔の交流で大変な人気でした。

当日は、日本のお手玉の会の会員さんで「どうしてもお手玉の段位を取得したい」と以前から熱心にご希望されていた宮崎安夫さんが、早くからテントに来られ、汗いっぱいの練習の後、見事に四段の認定証を手に入れました。同じく東京支部前会長の小泉珠子さんも四段に挑戦、認定され、豊田会長から認定証が授与されました。

そのほか、宮中雲子副会長をはじめ、会員の方も応援に来てくださり、遠くはサンディエゴ(支部:サンディエゴ・オテダマ・カイ)からビルマン、豊田大社長、マナージャーの坂井さんご夫婦にも参加していただき、美味しい蜂蜜入りの極めつき「いなり煮司」の差し入れがありました。長野県支部の篠田会長も参加され、終日大賑わいでした。

競技大会には、お手玉の全国大会にも出場されている選手の方もいらっしゃって、一般の部に奈良県の福島さん、中学生の部に老田さんが出場され、老田さんは優勝と文部科学大臣賞を、福島さんは理事長賞をそれぞれ受賞されました。

天高く鳥記ゆる実り多い一日でした。

全国お手玉遊び神戸大会

日時/平成16年9月5日(日) 9:30~16:30
会場/グリーンアリーナ神戸

●お手玉遊び競技大会 ●お手玉遊び教室
●お楽しみ会 ●お楽しみコーナー
●お楽しみコーナー ●お楽しみコーナー
●お楽しみコーナー ●お楽しみコーナー



前夜祭
9月4日(土)16:00~

ありがとう そして未来へ...

ありがとう そして未来へ...



兵庫県と神戸市が地域と協働し、地域の活性化、高齢者の健康増進、子供の健全育成、伝承遊びの継承を目的に、また震災10周年のプレ事業として全国から参加者を含め2,000名の参加を得て開催するものです。

大会に向けて、豊岡市や神戸市と兵庫県内5カ所でプレ大会を開催しました。さらに、但馬会場と神戸会場では、「ゲーム脳の恐怖」著者、日本大学の森昭雄教授に講演会をお願いしました。当日はゲーム脳に興味のある多くの方にお集まりいただき、みなさん熱心に聞き入っていらっしゃいました。

現在は、大会のPRと地元の大学へボランティアの呼びかけをしています。神戸らしさがアピールできる大会になればと、企画中です。全国のみなさまのお越しをお待ちいたしております。



主催
日本のお手玉の会
第12回全国お手玉遊び神戸大会実行委員会
(神戸市教育委員会、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、のじく兵庫国体実行委員会、(社)兵庫県教育協会青年部会)

協賛
兵庫県教育委員会
神戸市教育委員会
のじく兵庫国体実行委員会
(社)兵庫県教育協会青年部会

実行協力
神戸のお手玉の会
TEL:078-727-2620
FAX:078-727-2620
http://www.shikoku.ne.jp/otedama/

*** 全国大会までの予定 ***

平成15年11月	実行委員幹事会
平成16年2月	実行委員幹事会
4月	大会案内の印刷開始
5月	大会案内を全国へ発送 同時に大会受付開始
6月	審判講習会
7月	大会受付締切

*開催日は、変更になる場合がございますので、ご注意下さい。



発行・編集

日本のお手玉の会 会報編集委員会

〒792-0811 愛媛県新居浜市庄内町1-13-14

TEL/0897-36-0600・FAX/0897-36-0644
E-mail: tamachan@otedama.shikoku.ne.jp
ホームページ
http://www.shikoku.ne.jp/otedama/